

いわや  
岩屋ダムの防災操作について(速報)

まぜがわ ひがしくつべ  
(馬瀬川(東沓部地点)の河川水位を1.45m低減する効果を発揮)

独立行政法人水資源機構の管理する岩屋ダムでは、台風10号の影響により、令和元年8月15日～16日までの間に岩屋ダム上流の馬瀬川で、降り始め(15日20時)から16日15時までの総雨量で171.0ミリ、時間最大雨量23.0ミリ(16日4時)を記録しました。

この降雨により、岩屋ダム貯水池に流れ込む水の量(流入量)が、16日7時54分に洪水流量(毎秒300立方メートル)に達したため防災操作を行いました。

16日10時16分には、流入量が最大(毎秒約698立方メートル)となり、この85%にあたる毎秒約592立方メートルを岩屋ダムに貯め込んで、ダム下流の河川水位の低減に努めました。

これにより、ダム下流の馬瀬川東沓部地点(下流基準点)において、1.45メートル河川水位を低下させたと推定されます。

ダムへの流入量が最大となった時刻	同時刻におけるダムへの流入量	同時刻におけるダムの放流量	同時刻におけるダム貯留量
8月16日 10時16分	毎秒 698.00 m <sup>3</sup>	毎秒 105.66 m <sup>3</sup>	毎秒 592.34 m <sup>3</sup>

東沓部地点※の水位が最高水位となった時刻	同時刻における東沓部地点の河川水位	ダムがなかった場合の同地点の最高水位	ダムによる水位低減効果
8月16日 9時30分	3.66m	5.11m	1.45m

- ※ 東沓部地点：下呂市金山町東沓部乙鳥水管橋下流(岩屋ダムから約9.3km下流、飛騨川本川合流点から約7.5km上流の地点)
- ※ 防災操作とは、岩屋ダムに流れ込む馬瀬川の水が、大雨によって毎秒300立方メートル以上に増加したとき、その水の一部を一時的に貯め込むことで、岩屋ダムから下流へ流す水の量を減らし、岩屋ダム下流の馬瀬川の水位を低減させることです。
- ※ 今回の発表は速報値であり、今後の精査によって数値等が変わることがあります。



令和元年8月20日

独立行政法人水資源機構  
いわや  
岩屋ダム管理所

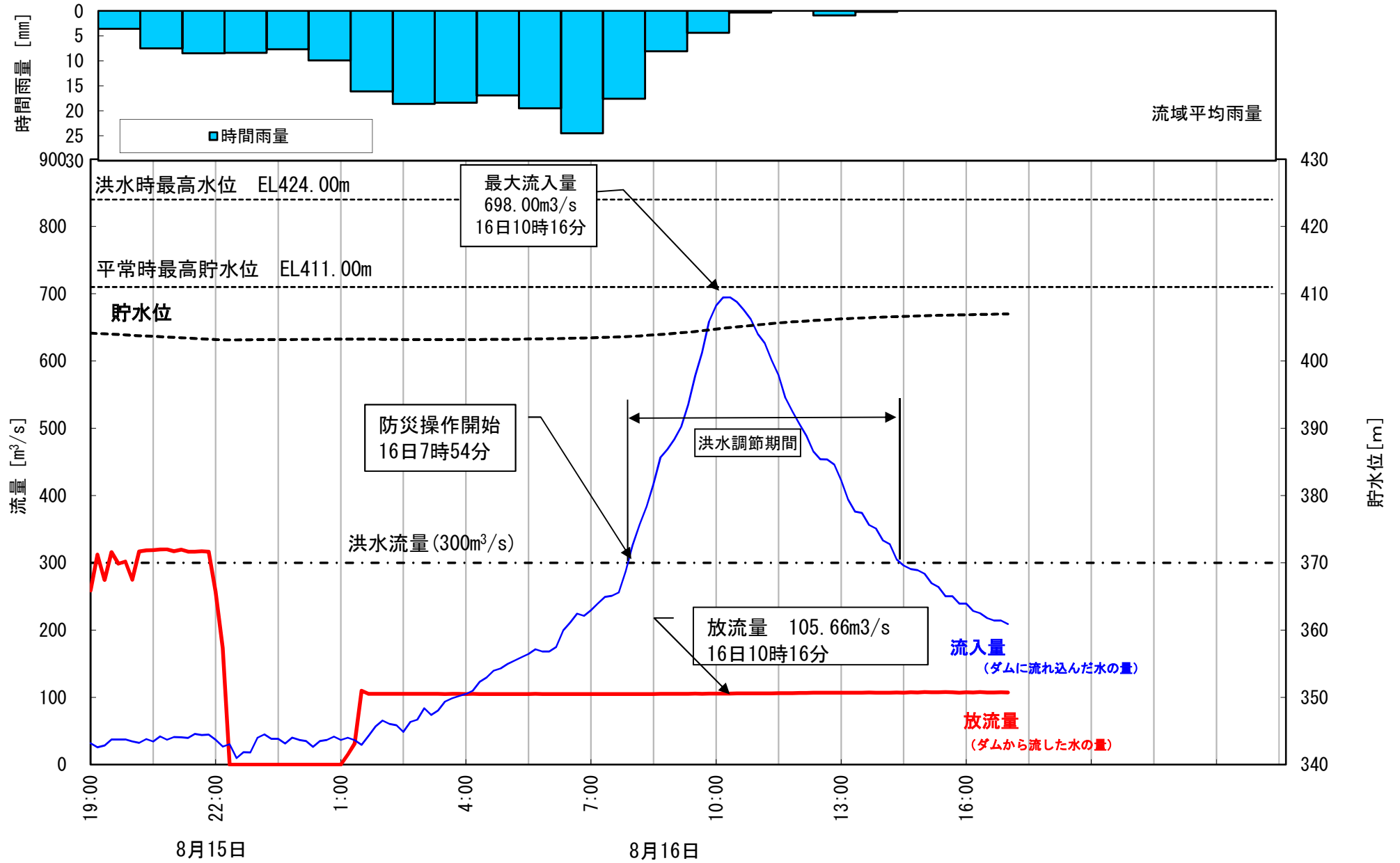
発表記者クラブ

中日新聞社萩原通信局	朝日新聞社高山支局
岐阜新聞社下呂支局	毎日新聞社岐阜支局高山通信部
読売新聞社下呂通信部	シーシーエヌ株式会社

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 岩屋ダム管理所 所長代理 金山  
電話：0576-35-2339

岩屋ダム防災操作図 [令和元年8月15日～16日 洪水]



# 岩屋ダムによる下流河川水位低下効果(速報)

## 【注意事項】

この資料は、岩屋ダムの貯留量を東沓部地点の流量に加算し、河川水位を算定したものです。

